

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(5)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆

されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。また、

UCI(いわゆる「郭グループ」)は、日本で集会を行って『統一教会の分裂』

(日本語訳)という書籍を広めていますが、その書には誤訳やみ言改竄が散見

し、お父様とお母様が分裂しているかのように論じています。彼らの主張は、真のお父様が真のお母様と共に立ててこられた勝利圏を否

定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるもので

す。前回に引き続き、UCI側を支持する人々の言説の誤りを指摘していき

ます。なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布

文サイト (http://trueparents.jp/) の掲載文や映像をごらんください。教理研究院

注、真の父母様のみ言や『原理講論』は「青い字」で、UCI側の主張は

『茶色の字』で区別しています。から日本で集会を行って広めて

五、UCI側が広める金鍾奭著『統一教会の分裂』の「虚偽」

を暴く(2) います。その書籍は、真のお母

——金鍾奭氏が主張する「アイ 様がお父様に反逆しておら

デンティティ」の誤り・その一 れるかのように述べており、「最

UCI(いわゆる「郭グルー 終一体」は条件的な約束にすぎ

プ」側を支持する人々は、金 ず、お父様はお母様と一体化で

鍾奭著『統一教会の分裂』(日 けないことに対し苦心しておら

本語訳)を、二〇一六年の秋頃 れたかのように論じています。す

籍の内容が、み言の改竄や誤訳

による意図的な「虚偽のストーリー」であることを明らかにしました。

金鍾奭著『統一教会の分裂』に散見するみ言改竄や誤訳の問題を取りあげていくに当たり、

まずは、金鍾奭氏が述べている「アイデンティティ」の誤りを指摘します。

『統一教会の分裂』では、「救世主、メシヤ、真の父母の使命が完遂された状態は、救世主、

メシヤ、真の父母の存在する必要がない」(48ページ)、「文顯進は、復帰摂理の中心が創始者(注、お父様)ではなく、創

造主である神様であることを主張する」(63ページ)などと論じており、さらに「統一教会の

核心アイデンティティは『One Family Under God』、神様の下の「大家族」という標語に集約される」と主張します。

この顯進様が述べている「核心アイデンティティ」が、真族」であると規定します。そして、その「大家族世界とは「神様を父母として侍る一つの血縁関係の大家族世界を志向する」と

と意味づけをします。この意味づけは正しいのでしょうか。以下、『原理講論』およびみ言を引用します。

「天国においては、神の命令が人類の真の父母を通して、すべての子女たちに伝達されることにより、みな一つの目的に向かって動じ静ずるようになるのである」(69ページ)

「個性完成して、罪を犯すことができなくなったアダムとエバが、神の祝福なされたみ言どおり、善の子女を繁殖して、罪のない家庭と社会をつくったならば、これがすなわち、一つの父母を中心とした大家族をもって建設されるべきところの天国であった」(135ページ)

のお父様の思想とどのように食い違っているのかについて、み言や『原理講論』と比較して検証しておく必要があります。

『統一教会の分裂』は、「創始者は、家庭連合創設と共に宗教時代が終わり……宗教が本来の世界を探し出す為に人間に提示した祈禱、礼拝、神様崇拜といった宗教行為は、根本的に必要なくなったというのである。

統一教会の信仰者は宗教時代の卒業証書を受け取った立場なので、宗教行為に執着するのではなく……」(46ページ)、「創始者は、二〇〇一年から自分の宗教的使命が具体的に成就する国を天宙平和統一国(天一国)と

名付け、「絶対者・神様を中心に……超宗教・超国家・超人種・超NGO・超国連基盤の平和統一理想天国が正に天一国」と教示した」(54ページ)、「真の父母は教会や統一教会という特定宗教を作る為に来たのでは

ない」(73ページ。注、太字ゴシックと圏点は教理研究院による)などと述べており、このよう

な主張を検証せずに読んでみると、この書が「真実」を語っているかのように錯覚する人も

いるかもしれません。それゆえ、み言や『原理講論』と具体的に比較し、どこが誤り

であるのかを明確にしておかなければ、知的に惑わされ、情的にも混沌とさせられてしまうこ

ともありえます。そこで、『統一教会の分裂』が主張する「アイデンティティ」の、どこが誤りであるのかを指摘していきます。

(1) 真の父母の存在しない「One Family Under God」神様の下の「大家族」の主張について

金鍾奭氏が『統一教会の分裂』で述べている「統一教会の核心アイデンティティ」の部分を下、引用します。

「神様と真の父母に侍らなければなりません。神様は縦的な父母であり、完成したアダムとエバは横的な父母であって、この二つの父母が一つになったその上で統一が成され、天国と神様が連結されるのです。ですから、神様と真の父母に侍らなくては何もできません」(八大教材・教本『天聖經』2316ページ)

「One Family Under God、神様の下の『家族』の世界とは、上述の『原理講論』やみ言で分かるように、神様と真の父母様のもと『一族世界』です。

ところが、『統一教会の分裂』は、「創始者は、家庭連合創設と共に宗教時代が終わり……神様の創造目的を成していく時代になったことを宣言した。……救世主、メシヤ、真の父母の使命が完遂された状態は、救世主、メシヤ、真の父母の存在する必

要がないことを意味する」(46〜48ページ)とか、一族世界とは「神様を父母として侍る一つの血縁関係の大家族世界を志向する」という意味である」(62ページ)と述べており、その言説はみ言および『原理講論』と異なった主張となっています。それゆえ、統一教会の核心アイデンティティーを正しく表現するならば、それは、神様と真の父母様を父母として侍る一族世界である」と言うことができます。

神様の復帰摂理が成就され、全ての人が原罪のない神様の血統へ転換されて人類一族世界が実現されたならば、確かに「救い主」としてのメシヤ、救世主、真の父母は必要なくなりません。しかし、たとえ「救い主」が必要のない理想世界が実現しても、その理想世界は神様と一体とされた真の父母を礎とする世界であり、人間始祖の立場である「真の父母」は永遠に存在し

続けるのです。このように見たとき、金鍾奭氏の述べる顕進様の「真の父母の存在しないOne Family Under God」が誤りであることが分かります。

(2) 顕進様の「統一教会の伝統」に関するアイデンティティーの問題点

【問題点その①ー復帰摂理の中心が創始者ではないとする誤り】

金鍾奭氏は、「統一教会の伝統」に関する顕進様のアイデンティティーを次のように述べます。まず、『統一教会の分裂』から、顕進様のアイデンティティーを引用します。

「第一に文顯進は、復帰摂理の中心が創始者ではなく、創造主である神様であることを主張する」(63ページ)

果たして、この『統一教会の分裂』が言う顕進様の主張は正しいのでしょうか。『原理講論』およびみ言を以下、引用します。

「もしユダヤ民族が、イエスを信じかつ侍り奉って……いたならば、そのときにおいても彼らが立てた「メシヤのための民族的基台」の上に来られたメシヤを中心として、復帰摂理は完成されることになっていたのである」(282ページ)

「再臨主はイエス様が果たせなかつた神様の復帰摂理の根本を完成するために来られます。すなわち、創造理想を完成すべき真なる本然の赤ん坊の種として来て、神様の真の愛、真の生命、真の血統の根源になる真の父母の理想を完成するために来られます」(『祝福家庭と理想天国(I)』43ページ)

以上のみ言と比較すると、金鍾奭氏が述べる顕進様のアイデンティティーとお父様のみ言の間には、明確な食い違いがあることが分かります。もちろん、復帰摂理は、墮落

した人間を創造本然の人間に復帰していく神様の摂理であるため、そのような観点から見ると、摂理の中心は神様であると言うことができます。しかし、注目すべき点は、金鍾奭氏の主張のうち「復帰摂理の中心が創始者ではない」と否定している部分です。

前述したように、『原理講論』は、「メシヤを中心として、復帰摂理は完成される」と論じており、み言にも「再臨主はイエス様が果たせなかつた神様の復帰摂理の根本を完成するために来られます」とあり、復帰摂理の中心が、創造主である神様の中心であると断言することはできません。むしろ、アダムとエバの墮落で失った「真の父母」を取り戻すため、「真の父母」ご自身が責任を果たし、勝利しなければならぬという観点から見ると、復帰摂理の中心は「真の父母」であると言えるのです。事実、『原理講論』は、「人間

始祖がその責任分担保を全うすることができなかつたために、逆にサタンの主権を受けなければならぬ立場に陥つてしまった。それゆえに、人間がサタンの主権を脱して、逆にサタンを主権し得る立場に復帰するためには、人間の責任分担保としてそれに必要な蕩滅条件を、あくまでも人間自身が立てなければならぬのである」(276〜277ページ)と論じています。それゆえ、人間始祖の立場で来られた「真の父母」の使命が極めて重要であるという事は言うまでもありません。

ところが、金鍾奭氏は「復帰摂理の中心が創始者ではない」と否定します。彼の述べる「顕進様のアイデンティティー」の主張は、真のお父様の目指す理想世界と異なる「真の父母の必要ない世界」をつくらうとするものと言わざるをえません。

【問題点その②ー創始者を神様

の実体として崇拜していると批判する誤り】

『統一教会の分裂』は、「第二に文顯進は……宗教的救援論の限界の中に創始者を閉じ込めてしまふ統一教会の宗派的教理とアイデンティティーを批判した。統一教会が創始者を創造主・神様と一体を成した存在、神様の実体として崇拜してきたのと違い、文顯進は創始者を創造主・神様の理想を実現する為に一生を捧げた「息子」として認識し、創始者をこうした次元のメシヤとして定義している」(63ページ)

さらに、「彼(注、顕進様)の認識は、復帰された人間と創造主である神様との関係を明らかにすることによって、創始者と韓鶴子を神格化しようとする既存の統一教会神学を批判する」(63ページ)と述べ、統一教会が「創始者を創造主・神様と一体の存在、神様の実体として崇拜」(同)していると批判して

います。この批判を真のお父様のみ言と比較し検証してみます。

「神様がアダムとエバを造つた目的は、どこにあるのでしょうか。私たち人間の形状を見てください。体もっています。しかし、無形の神様には体がありません。体をもたなければ、霊界の世界や地上世界を治めることができなさいのです。ですから、神様がいらっしゃるにしても、神様が人間の父母として現れるためには体をもたなければならぬのですが、その体をもつた代表が誰かというと、アダムとエバなのです。墮落してこないアダムとエバの体をもって現れるのです。それゆえアダムとエバは、人類の始祖であると同時に、天地を主宰する神様となるのです。実体をもつた神様、すなわち永遠の無形世界の神様の形状を代わりにもつて現れた立場で、父母の立場で世界を統治する責任がアダムとエバ

にあったのです」(八大教材・教本『天聖經』124ページ)

「アダムとエバが、心の中に神様をお迎えし、一体となって完成した上で、結婚して子女を生んで家庭を築いたならば……神様は、真の愛を中心としてアダムとエバに臨在されることにより、人類の真の父母、実体の父母としておられ、アダムとエバが地上の生涯を終えて霊界に行けば、そこでもアダムとエバの形状で、彼らの体を使って(神様は)真の父母の姿で顕現されるようになります」(『平和神経』54〜55ページ)

以上のみ言から見ると、アダムとエバが完成し、真の父母となったなら、神様はアダムとエバに臨在され、真の父母は『**実体の神様**』の立場になるといいます。

ところが、金鍾奭氏は、「**文顯進は創始者を創造主・神様の**

理想を実現する為に一生を捧げた『**息子**』として認識し、創始者をこうした次元のメシヤとして定義している」と述べており、その主張は、「アダムとエバは、人類の始祖であると同時に、**天地を主宰する神様となる**。」という真のお父様のみ言と食い違っています。

また、金鍾奭氏は、「統一教会が創始者を創造主・神様と一体の存在、神様の実体として崇拝してきた」と批判的に述べます。しかし、『原理講論』は次のように論じます。

「再臨主は、旧約と新約のみ言を完成するための、新しいみ言をもってこられる方である。ゆえに、完成復活摂理は、新旧約を完成するために下さる新しいみ言(成約のみ言)……を、人間たちが信じ、**直接、主に待ってその責任分担を完遂し、義を立てるように摂理なさる**のである。それゆえに、この時代

を**待、義時代ともいう**」(219ページ)

金鍾奭氏は、真の父母様を「崇拝してきた」と批判しますが、『原理講論』が論じるように、完成復活摂理とは直接メシヤ(真の父母)に侍って義とされる**侍義時代**であり、侍ること**で救いを完成させる時代**です。それを、よりの確に表現するなら、統一教会(家庭連合)は真の父母に「侍っている」のであって、金鍾奭氏が述べるように、ただ単に「崇拝している」のではありません。

『統一教会の分裂』を検証すると、UCI側は統一教会の『アイデンティティー』を間違っ

会のアイデンティティーは間違った主張であるという事実が明らかになります。

また、メシヤについても、「**創始者を創造主・神様の理想を実現する為に一生を捧げた『息子』**」であると定義します。しかし、『原理講論』やみ言は次のようになっています。

「元来、神がアダムとエバを創造された目的は、**彼らを人類の真の父母に立て、合性一体化させて、神を中心とした四位基台をつくり、三位一体をなさしめる**ところにあった。もし、彼らが墮落しないで完成し、**神を中心として、真の父母としての三位一体をつくり、善の子女を生み殖やしたならば……神の三大祝福完成による地上天国は、そのとき、既に完成された**」(267ページ)

「皆さん各自の血統的内容が違い、背後が違っていると

も、**父母と似る**ためには接ぎ木する役事を行わなければなりません。……接ぎ木しようとすれば、皆さん自身が残された蕩滅路程をすべて清算しなければなりません。それは、父母から始めたので、父母を通して清算されなければなりません。ですから、**真の父母に接ぎ木しなければならぬ**のです。アダムは、**真の父母になる**ことができず、**偽りの父母**となったので、**今まで神様は、真の父母を探し求めてこられたのです**」(八大教材・教本『天聖經』1742ページ)

「この世の中に一つの真のオリブの木の標本を送ろうというのが、メシヤ思想です。ところで、真のオリブであるメシヤ一人が来てはいけません。サタン世界が夫婦を中心として社会を形成し、国家を形成したので、メシヤが一人で来ては、**真のオリブの木になりません**。メシヤとしての真のオリブの

木と、メシヤの相対となる真のオリブの木を中心として、これが一つになってこそ、真のオリブの木として実を結ぶことができます」(天一国経典『天聖經』183〜184ページ)

上記のみ言を要約すると、メシヤは「**神の創造目的**」を完成するために来られるのであり、その三大祝福を完成するには、真のお父様お一人では成しえないのです。すなわち、再臨主は「**小羊の婚宴**」を成して「**真の父母**」にならずして、**創造目的**を成就できません。

金鍾奭氏は、「**文顯進は創始者を創造主・神様の理想を実現する為に一生を捧げた『息子』として認識し、創始者をこうした次元のメシヤとして定義している**」と主張しますが、その思想は、**神のみ言を成就される『真の父母』**という観点から見れば根本的に誤った言説であると言わざるをえません。

前述したみ言に、「**神様と真の父母に侍らなければなりません**。神様は縦的な父母であり、完成したアダムとエバは横的な父母であって、この二つの父母が一つになったその上で**統一が成され、天国と神様が連結される**のです。ですから、神様と真の父母に侍らなくては何もできません」(八大教材・教本『天聖經』2316ページ)とあるように、理想世界を実現するには、神様だけを中心とするのではなく、**天国(天一国)は連結されず、どこまでも「二つの父母が一つになったその上で統一が成され、天国と神様が連結される」ということを知らなければなりません**。

したがって、真のお父様と共に真のお母様も「**真の父母**」として神様の創造理想を実現するために一生をささげてこられ、今なお歩んでおられるのです。このような事実を踏まえ、この「**統一教会の分裂**」は意図的に

み言を操作し、お母様の存在をおとしめようとしているものと言わざるをえません。

今回は『統一教会の分裂』が主張する「統一教会のアイデンティティー」と「真の父母の捉え方」に対する誤りを中心に述べてきましたが、この書籍が述べる「統一教会のアイデンティティー」が顯進様の主張に基づいて構成され、UCI側の人たちがこの書籍を積極的に広めていることを見ると、この書籍の内容は、**顯進様の主張を「代弁」していることは明らか**です。しかし、その内容は、真のお父様の思想とは異なったものとなっています。

私たちは、この書籍がそのように一方を代弁する立場で書かれていることをはっきりと知り、その内容に触れることがあったとしても、以上の真の父母様のみ言に基づいた視点を決して見失ってはなりません。